

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873000053
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホームいっしん館 いなり
所在地	茨城県かすみがうら市下稲吉1668-6 (電話) 0299-37-7801

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年6月17日

## 【情報提供票より】(平成 21年 2月 5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 13 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤	4人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.2人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1100 円			

## (4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	15名	男性	6名	女性	9名	
要介護1		名	要介護2	5	名	
要介護3	2	名	要介護4	8	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	81.9歳	最低	64歳	最高	93歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八千代病院・ストレスケアつくばクリニック・長谷川歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

丁寧なアセスメントを実施して利用者それぞれの思いにそった関わりをもちながら、利用者一人ひとりがその人らしく生き生きと生活できるよう管理者・職員共に協力して日々のケアに努めており、笑顔のあふれる明るいホームである。事業所の機能を活かして一泊旅行を実施する等ホーム独自の行事も充実しており利用者は季節ごとにドライブ等を楽しんでいる。地域の民生委員や地区長の働きかけや散歩時の積極的な挨拶などを通して地域との関わりも広がり、ホームの行事に地域の方々が参加してくれたり、地域の夏祭りを共に楽しんだり地域に溶け込んだホームになってきている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での課題であったホームの理念を管理者・職員の一人ひとりがそれぞれの考えを出し合って全員でホーム独自の理念を作り上げた。地域とのつきあいについても、民生委員や地区長の協力を得て関係を深め、ホームの行事に地域の方々が参加してくれたり、地域の行事に招待される関係作りができた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティング等で職員の意見を聞き、管理者が自己評価を作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市の福祉担当者や民生委員、地区長等をメンバーとして運営推進会議を開催し、外部評価の結果を公表しホームの抱える課題を検討した事で、民生委員・地区長の協力が得られ、地域の行事へ参加したり、ホームの行事に地域の方々が参加してくれたり地域との交流が深められた。また、市の担当者の協力を得て地域のボランティアがホームを訪れるようになった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りを毎月家族に送りホームでの様子をお知らせしたり、面会時には個別に近況を伝えて安心していただいている。また、運営推進会議のメンバーとして家族にも入ってもらったり、面会時には意見を言いやすい雰囲気作りをして、家族の意見を積極的に聞き、ホームの運営に反映するよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが地域住民との交流の場となる事を願って、地元の職員を通してホームの新聞を近隣の方々に配ったり、散歩の際には親しく挨拶を交わしたりして気軽にお付き合いができるように務めている。最近では、中学生の職場体験にホームを活用してもらったり、運動会の招待状が送られてきたり、地域の夏祭りに参加する等地域との交流・連携が進んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を意識しながら、管理者・職員が協力してでホーム独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を作り上げる過程で十分に話し合いをしたことで共有はできているが、理念を目に付く場所に掲示したり、新職員には常に理念を携帯し確認できるようにする等して、日々のケアにおいても理念をより具体的に実践できるように工夫されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが地域住民との交流の場になる事を願って、地元の職員をとおしてホームの新聞を近隣の方々に配ったり、散歩の際には親しく挨拶を交わしたりして気軽にお付き合いができるよう務めている。最近では、中学生の職場体験等にホームを活用してもらったり、運動会の招待状が送られてきたり、地域の夏祭りに参加する等地域との交流が深まっている。		認知症ケアの拠点として地域から信頼が得られるよう、今後もより一層地域への積極的な働きかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は本部で行われる主任者会議で検討し、全職員がその様子に目を通し共有する仕組みができている。また、運営推進会議でも議題として取り上げ具体的な改善に向けた取り組みができている。しかし、自己評価作成については職員の意見をミーティング等で聞き、管理者が作成している。	○	自己評価を一人ひとりの職員が利用者との日頃の関わりやケアの実践を振り返るための良い機会と捉え、管理者・職員が共に協力しながら作り上げていく取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催に際しては、外部評価の結果を公表しホームの抱える課題を検討した事で、地域の民生委員や地区長からの協力が得られ、地区の行事へ参加する等地域との交流が深まった。また、市の福祉担当者や利用者家族の出席がありホームの行事等への意見も頂いている。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を毎月1回受け入れるなど市との関りを積極的に行い、さまざまな情報を得る機会をつくっている。最近では市担当者の協力を得て地域のボランティアがホームを訪れるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを家族に送り、近況を知らせると共に面会時には個別に日々の様子を知らせている。健康状態に変化があった場合には随時報告をし相談しながら対応している。金銭の管理については立替払いとし明細を利用料請求時に家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーとして家族に入ってもらったり、面会時には意見を言いやすい雰囲気作りをして、家族の意見を積極的に取り入れる努力をしている。またアンケートを実施して言いにくい要望・意見でも伝えられるような仕組みをつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動による利用者への影響について十分に理解しており、異動に際しては、利用者と一緒に馴染んでいけるように、移動先のユニットに何度も出向き交流を深めるように務めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内全体で講師を招いてのさまざまな社内研修をし、その内容を全職員が共有できるよう月1回のミーティングで報告をしている。	○	社内研修は充実しているが、職員の力量を考慮した外部の研修も積極的に受講できる体制作りを期待したい。また受講後には、研修報告書を作成し、誰もがいつでも目を通せるようにする等全職員での共有に向けた努力を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の連絡会に参加して同業者との交流をしている。近隣のグループホームが誘い合って集まり、介護交流会や勉強会を開きサービスの質の向上に励んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込みがあった場合には、利用希望者を訪問し、本人についての情報の収集を行うと共に馴染みの関係作りに務めている。また、見学に来ていただいたり、数時間他の利用者と共に過してホームの雰囲気を体験してもらったり、さらにはお泊りの体験もできるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることを常に意識しており、料理や畑作りなど利用者から教えてもらう機会も多く、お互いに協力しながら日々の生活を楽めるような関係作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時から丁寧なアセスメントを実施しており、利用者それぞれの生活歴や一人ひとりの思い、どのような生活を希望しているか等について把握している。日々の関わりにおいても一人ひとりの思いに注意深く耳を傾け、新しい情報の収集に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望にそった生活の実現を目指して日頃から本人や家族の意見や思いを聞き取り、介護計画に反映している。介護計画の作成にあたっては担当制を取り入れており、2～3人の職員が2～3人の利用者を担当し、本人・家族の意見や要望を取り入れて丁寧な検討を重ねて作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の定期的な見直しを行うと共に、サービス担当者会議を3ヶ月に1回開催して実施状況をモニタリングしている。モニタリングの結果に応じた見直しや、状態の変化による随時見直しも実施している。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症状が重度の人や車椅子利用者等、個人では実現しにくい温泉旅行等を事業所が計画して家族と共に楽しめる機会をつくっている。また他の事業所との交流を通して同年代の人たちとの交流が楽しめるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関とは24時間いつでも対応できる体制が整っており、2週間に1度の往診で利用者の健康状態の把握をし、必要に応じてかかりつけ医・主治医との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に重度化に際してのホームの方針を説明して同意を得ている。利用者の状態に応じて家族やかかりつけ医・職員間で話し合いを繰り返し、本人にとって最善の方法が選択できるよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であることを意識しながら利用者の誇りを傷つけることのないよう十分な配慮を常に心がけている。個人情報等の記録は鍵のかかるロッカーで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関りの中から常に本人の意向を聞き取り、食事・入浴等についても特に時間を定めず本人のペースに合わせている。季節ごとの慣わし等も本人の希望にそって取り入れるようにしている。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者の好みを聞きながら決めるようにしており、食材の買物から利用者に同行してもらっている。食事は利用者・職員と一緒にいただき、準備や後片付けも役割を決めて行っている。また、にぎり寿司パーティーや本格的な正月料理等、特別な食事を楽しむ機会も設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそって好みの時間に入浴できるようにしており、入浴できない日には足浴を実施している。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯なども楽しめるようにしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの特技を活かして、包丁研ぎ、畑仕事、食事の準備や洗濯物たたみ、掃除等の役割をもって充実した日々を過ごせるようにしている。楽しみごとや気晴らしのためにはレンタルショップで本を借りてくる、好きな音楽誌を購読する等やイチゴ狩り・柿狩り・温泉地への一泊旅行等の支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩・畑仕事や毎日の食材の買物に同行する等を通して戸外へ頻繁に出かけている。また、イチゴ狩りや柿狩りなどを計画して季節ごとのドライブや、外食の機会を設けて外出を楽しめるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の配慮もあり施錠しているが、日中は鍵をかけずに自由に入出入りが出来るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練では消防署と協力して夜間を想定しての訓練も実施しており、災害対策として非常食・飲料水の備蓄もしている。また、地区長を通して災害時における地区との連携も検討している。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立は栄養士の指導を受けており、チェック表を用いて食事量・水分摂取量の把握をしている。利用者の状態に応じてミキサー食の提供も行っており、月1回の体重測定で適正な食事量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に飾られている写真や掲示物も丁寧に整理されており、観葉植物などを配置したりして、ホッとできる空間作りへの工夫がしてあった。トイレや浴室・台所等も掃除が行き届いており清潔がたもたれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの居室には、仏壇や家族の写真などのこだわりの物や趣味の道具等が置いてあり、それぞれが居心地よく過ごせるような個性的な居室になっている。		